

事例2 器楽（鍵盤ハーモニカ）の学習における知識・技能の評価

○学年 低学年

○領域・分野 A表現（2）器楽

○事例のポイント

- ①児童の思考判断のもとになっている音楽を形づくっている要素は、【音色、速度、旋律、強弱】である。
- ②思いに合った表現をするために必要な技能の習得に向けた活動を例示する。
- ③「知識・技能」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点の関連について例示する。
- ④音楽づくりア、イ及びウの各事項(イ)「音を音楽にしていく活動」を展開する。
- ⑤ICT機器を活用した、個に応じたきめ細かな器楽指導の展開をする。

1 題材名 ドレミであそぼう（9時間扱い）

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、平素の音楽の授業から音楽の諸要素を聴き取りながら思い切り体を動かしたり、思いに合わせて歌ったりできる児童が多い。しかし、器楽の学習では、鍵盤ハーモニカの技能の差が大きく、個別支援を必要とする児童が在籍する学級である。

題材の学習に関する事前アンケートをとったところ、表のような結果となった。このことから、歌唱の活動に対して、音程感覚や技能によらず、多くの児童が意欲的に活動していることが分かった一方で、器楽の活動に対しては、個人差が大きなことが課題として分かった。

【表】題材の学習に関する事前アンケート

①歌うことは、好きですか？	はい23人 いいえ2人 どちらでもない3人
②楽器を演奏することは、好きですか？	はい15人 いいえ10人 どちらでもない3人
③②と答えたわけは、ありますか？	演奏すると気持ちがいいから／運指が難しいから／ドレミが分からないから
④音楽を聴くことは、好きですか？	はい19人 いいえ2人 どちらでもない7人

以上の児童の実態を踏まえ、指導に当たっては、体を動かしたり、板書を工夫したりしながら、音の高さを体験的、視覚的に感じ取ることができるようにする。また、器楽の指導場面においては、教師がICT機器を効果的に活用することで、個に応じたきめ細かな指導を展開して技能を確実に習得できるようにする。歌唱と器楽を合わせて演奏したり交互に演奏したりするような指導場面では、階名に慣れ親しませることで、歌唱と器楽の活動をつなげられるようにする。

(2) 題材について

本題材は、これまでに学習した音の高さの感覚をより確かなものにしていくことに重点がおかれた題材である。親しみやすい旋律や跳躍せずに隣接する音へと進行する旋律の教材が多いことから、音の高さに気を付けながら歌ったり演奏したりするために必要な知識・技能を楽しみながら身に付けることができるような題材の構成となっている。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材は、学習指導要領A表現（1）歌唱ア、ウ(ア)(イ)(ウ)、（2）器楽ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)(ウ)、（3）音楽づくりア(イ)、イ(イ)、ウ(イ)、B鑑賞ア、イと関連するものである。

3 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりに気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な互いの歌声や楽器の音、伴奏を聴いて声や音を合わせて歌ったり演奏したりする技能や即興的に音を選んだりつなげたりして旋律をつくる技能を身に付ける。〈知識及び技能〉
- (2) 旋律の音の動き、音の重なり、強弱、音楽の縦と横の関係、音の重なりが生み出す曲や演奏の楽しさを見いだしながら聴いたり、旋律の音の動きを生かしてどのように歌ったり演奏したり旋律をつくったりするかについて思いをもつ。〈思考力、判断力、表現力等〉

(3) 旋律の音の動きや音の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽を聴いたり表現したりする学習に親しむ。〈学びに向かう力、人間性等〉

4 教材について

- (1) 「ドレミのうた」 (ペギー葉山日本語詞／リチャードロジャース作曲)
- (2) 「かっこう」 (小林純一日本語詞／ドイツ民謡)
- (3) 「かえるのがっしょう」 (岡本敏明日本語詞／ドイツ民謡)
- (4) 「ぷっかりくじら」 (高木あきこ作詞／長谷部匡俊作曲)

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱ア 曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと
	歌唱ウ (ア) 階名で模唱したり暗唱したりする技能を身に付けること (イ) 自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けること (ウ) 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けること
指導事項	器楽ア 曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつこと
	器楽イ (ア) 曲想と音楽との関わりに気付くこと (イ) 楽器の音色と演奏の仕方との関わりに気付くこと
指導事項	ウ (ア) 範奏を聴いたり、リズム譜を見たりして演奏する技能を身に付けること (イ) 音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けること (ウ) 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けること
	鑑賞イ (イ) どのように音を音楽にしていかにについて思いをもつこと イ (イ) 音やフレーズのつなげ方の特徴に気付くこと ウ (イ) 音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付けること
〔共通事項〕	ア 旋律、リズム、音の重なり、強弱、音色
	イ 音楽の縦と横の関係
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・音の高さに合わせて体を動かしながら聴く。 ・階名や歌詞で交互唱をしたり、輪唱したりする。 ・鍵盤ハーモニカで交互奏をしたり、輪奏したりする。 ・音の強弱や音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカと歌声を重ねる。 ・音のつなげ方を試しながら旋律をつくる。

6 題材の評価規準


※丸数字・・・全員の学習状況を記録に残す場面

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>①[知]曲想と音楽の構造との関わりに気付いている。(鑑賞)</p> <p>②[技]思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や楽器の音、伴奏を聴いて声や音を合わせて歌ったり演奏したりする技能を身に付けて演奏している。(歌唱・器楽)</p> <p>③[知技]思いに合った表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだり、つなげたりして旋律をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。(音楽づくり)</p>	<p>[思]①旋律の音の動き、リズム、音の重なり、強弱、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>[思]②旋律の音の動き、音の長さ、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。(器楽)</p> <p>[思]③旋律の音の動き、音の重なり、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。(音楽づくり)</p>	<p>[態]①旋律の音の動きの特徴と曲想との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しんで主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。(鑑賞)</p> <p>[態]②旋律の音の動きや音の重なり、音の長さに興味をもち、音楽活動を楽しんで主体的・協働的に歌ったり鍵盤ハーモニカを演奏したり旋律をつくったりする学習活動に取り組もうとしている。(歌唱・器楽・音楽づくり)</p>
1時	↓	↓	①観察・発言
2時		①観察・聴取・発言	↓
3時	①[知] 観察・聴取	↓	
4時	↓	②観察・聴取・発言	↓
5時			
6時	②[技] 観察・聴取		②観察・聴取
7時	↓	↓	↓
8時	②[技] 観察・聴取		
9時	③[知技] 観察・聴取	③記述・聴取・発言	②観察・聴取・発言

実践事例として活用しやすいよう、「事例のポイント」を記載しているが、本来は評価項目となる箇所である。
(P132 評価資料を参照)

7 指導と評価の計画 (全9時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 T:具体的な発問	○指導上の留意点	事例のポイント 留意事項◎
1次◆曲の楽しさを見いだしながら聴いたり歌ったりして、旋律の音の動きと曲想との関わりに気付く。			
1	○音の高さの違いや旋律の音の動きの特徴を感じ取る。 ・「ドレミのうた」を聴く。 ・階名で歌ったり、音の高さに合わせて体を動かしたりする。 T:同じドでも、高さの違うドがあるのに気付きましたか？	○「ドレミ風船」を用いたり、板書を工夫したりして、音の高さを視覚的につかめるようにする。 ○高いドと低いド等、同じドにも、音の高さがあることに気付けるようにする。	ポイント① ◎音楽の視覚化が、児童の思考判断のよりどころとなる。
2	○旋律の音の動きと曲想との関わり気付く。 ・旋律の動きに合わせて体を動かしながら聴く。 ・旋律の音の動きに気付く。 T:音の高さがだんだん上がっていくと、どんな気分になりますか？	○旋律の音の動きには、順次進行と跳躍進行があることに気付けるようにする。 ○盛り上がる部分に着目させ、音の高さと曲想には、関係があることに気付けるようにする。	
2次◆音の高さに気を付けながら歌ったり、演奏したりする。			
3	○音の高さに気を付けて歌う。 ・「かっこう」を聴く。 ・歌詞や階名で歌う。 ・音の高さや音の長さ、拍子を確認する。 T:最初の「ソミ・」と最後の「ソーミ」は、吹き方は、一緒ですか？変えますか？	○体を動かしながら音の高さを確認する。 ○休符や音の長さに気を付けて歌えるようにする。 ○教科書をICT機器で拡大表示して、音の長さや高さに意識を向けられるようにする。	ポイント⑤ ◎拡大して掲示することで、発声や姿勢に気を付けさせることができる。
4	○音の高さや息の使い方に気を付けて楽器を演奏する。 ・指番号で歌ったり、指を動かしながら階名で歌ったりする。 ・「かっこう」を鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・息の使い方を工夫して演奏する。 T:息に気を付けて吹くと音色や音楽の感じはどのように変わりますか？	○体を動かしながら音の高さを確認する。 ○休符や音の長さに気を付けて演奏できるようにする。 ○範唱動画で運指や演奏の仕方を示し、技能の習得を支援するようにする。 ○息の使い方(タンギング)に気を付けさせ、音色の違いを感じとらせるようにする。	ポイント⑤ ◎息の使い方(タンギング)に気を付けさせることで、鍵盤ハーモニカの学習がリコーダーの学習につながる。

5	<p>○音の重なりに気を付けて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かえるのがっしょう」を聴く。 ・歌詞や階名で歌う。 ・輪唱で歌う。 <p>T: 追いかけて歌う時は、どんなことに気を付けて歌いますか？</p>	<p>○休符や音の長さに気を付けて歌えるようにする。</p> <p>○教科書を I C T 機器で拡大表示して、音の長さや高さに意識を向けられるようにする。</p> <p>○教師と児童、児童と児童の組み合わせを変えて、何度も輪唱に取り組めるようにする。</p>	<p>ポイント⑤</p> <p>◎事前に範奏動画を録画しておく。指導の留意事項を字幕や写真を入れるなどすると活用効果が高まる。</p>
6 本 時	<p>○音の高さや演奏の仕方に気を付けて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指番号や階名で歌う。 <p>○音の重なりに気を付けて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かえるのがっしょう」を一人で演奏したり、輪奏で演奏したりする。 <p>T: 追いかけて演奏する時は、どんなことに気を付けて演奏しますか？</p>	<p>○新しく学習する指のポジション移動に気を付けさせるようにする。</p> <p>○鍵盤ハーモニカを演奏する前に空で指を動かしたり、運指を I C T 機器で拡大表示したりして、運指に慣れさせるようにする。</p> <div data-bbox="662 750 1157 929" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>P99 指導計画作成の留意事項(1)</p> </div>	<p>ポイント②</p> <p>◎運指が、フレージングに関係することに気付かせる。</p> <p>ポイント③</p> <p>◎「知識・技能」の評価の観点と「主体的に学習に取り組む態度」の関連。</p>
<p>3次◆曲の特徴を生かして、歌声と楽器の音色を重ねて演奏したり、音のつなぎ方に思いをもって旋律をつくったりする。</p>			
7	<p>○音の高さやリズムに気を付けて歌ったり、演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぷっかりくじら」を聴く。 ・歌詞や階名で歌う。 ・運指を確認する。 ・鍵盤ハーモニカで旋律を演奏する。 <p>T: リズムを生かすためには、どんなことに気を付けて、歌ったり、演奏したりしますか？</p>	<p>○譜例のように付点のリズムを直して旋律を歌い比べて、リズムの面白さに気付かせるようにする。</p> <p>(譜例)</p>  <p>○発音に気を付けさせたり、付点のリズムを弾んで演奏したりして、歌い方や演奏の仕方が工夫できることに気付かせるようにする。</p>	<p>ポイント①</p> <p>◎歌い比べる、演奏し比べる、聴き比べることが、思考判断のよりどころとなる。</p>
8	<p>○曲の特徴を生かして、歌と楽器を合わせて表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色を様々に試す。 ・歌と楽器の音色を重ねて演奏する。 <p>T: 歌と楽器を合わせて演奏する時には、どんなことに気を付けて演奏しますか？</p>	<p>○教師と児童で音色を重ねたり、学級を歌、楽器、聴取の3グループに分けたりして、役割を変えながら何度も楽曲に取り組めるようにする。</p> <p>○音を重ねる時は、音色や強弱に気を付けさせるようにする。</p>	


9	<p>○音のつながぎ方に思いをもって旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽づくりの条件を確認する。 ・教師が即興で旋律をつないで範奏する。 ・教科書の「せんりつあそび」の線つながぎを使って、旋律をつくる。 ・つくった旋律を演奏したり、発表したりする。 <p>T:音と音をつなぐときには、どんなことに気を付けてつながぎますか？</p> <p>T:最後の音は、どのくらいの強さで演奏すると、終わった感じがでますか？</p>	<p>○音楽づくりの条件を板書し、常に確認できるようにする。</p> <p>○つくった旋律を1音だけ変える等して音の選び方を試しながら、続きそうな音や終わりそうな音があることに気付かせるようにする。</p> <p>○順次進行と跳躍進行があることに気付かせるようにする。</p> <p>○伴奏を繰り返し再生する等して、拍感や速さを感じ取らせながら、つくった旋律を演奏できるようにする。</p>	<p>ポイント④</p> <p>◎音楽づくりア、イ及びウの各事項(イ)「音を音楽にしていく活動」の展開。</p> <p>◎教師が伴奏する場面と音源を用いる場面を使い分け、拍感をつかませながら、音楽づくりの活動に取り組めるようにする。</p>
---	--	---	---

8 本時の学習指導について (6/9時)

(1) 目標

- ・音程や演奏の仕方に気を付けて、音を合わせて鍵盤ハーモニカを演奏したり、音を重ねたりする技能を身に付ける。〈知識及び技能〉
- ・旋律の音の動きや音の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鍵盤ハーモニカを演奏する学習に取り組む。〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 展開

○学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
<p>○音の高さを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の音の動きに合わせて体を動かしながら聴く。 ・「かえるのがっしょう」を斉唱や交互唱、輪唱で歌う。 ・「かえるのがっしょう」の階名を確認する。 <p>○本時の目標や授業の流れを確認する。</p> <p>○演奏の仕方に気を付けて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポジション移動の仕方を確認する。 ・範唱動画を見て運指を確認する。 ・階名に合わせて空で指を動かしながら、指番号で歌う。 ・「かえるのがっしょう」を鍵盤ハーモニカで演奏する。 <div data-bbox="293 1794 759 2092" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">息の使い方の指導動画</p> <p style="text-align: center;">https://youtu.be/zMoFDmU9fGQ</p> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	<p>○授業の導入の活動（常時活動）では、前時で学習したことを振り返らせ、本活動につなげるようにする。</p> <p>○板書を工夫して、音の高さを視覚的に分かるようにする。</p> <p>○教師と学級全員、教師と特定の児童、少人数グループの児童同士等、組み合わせを変えて、何度も歌う場面をつくり、階名の定着を図るようにする。</p> <p>○事前にポジション移動の指の動かし方や運指を撮影しておき、範奏動画を大型モニターに投影できるようにしておく。</p> <p>○指がのびた状態で演奏しないように指の形に気を付けさせる。</p> <p>○演奏の前に「トゥ」で歌うなどして息の使い方（タンギング）に気を付けさせる。</p> <p>○伴奏音源の速さを調節する等して児童の技能の定着をスモールステップで図れるようにする。</p> <p>○運指でつまずきが見られる児童には、運指の正確さととられず、弾きやすい運指で演奏できるように声掛け、支援し、達成感をもたせる。</p> <p>○練習しながら何度も運指が確認できるようにする。</p>

に、範奏動画を繰り返し再生して画面に映しておく。

器楽指導でのICT活用例。範奏動画は、自治体で活用しているサーバー、YouTubeの限定配信やフリーサーバー、QRコード等を活用する等して、学校外からも視聴できるようにしておくと、家庭でも練習に取り組めるようになり、技能の定着を図りやすい。

〔QRコードを活用した範奏動画作成例〕

①ポジション移動の動画	②範奏動画	③運指が困難な児童への支援動画
https://youtu.be/o2U34a5TQvw	https://youtu.be/LUa9mn18wGg	https://youtu.be/m48LeJ3ifK0
		

- 輪奏で鍵盤ハーモニカを演奏する。
- ・教師と児童で輪奏を行い、輪奏できることを確認する。
- ・板書で音の重なり方を確認する。
- ・聴くグループと演奏するグループに別れて、音の重なりを感じ取る。
- ・友達同士で輪奏に取り組む。
- ・友達の発表を聴く。

P99 指導計画作成の留意事項
(1)、(2)

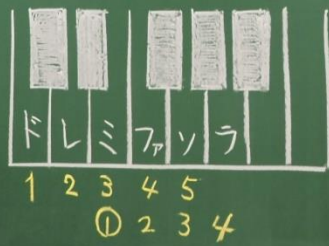
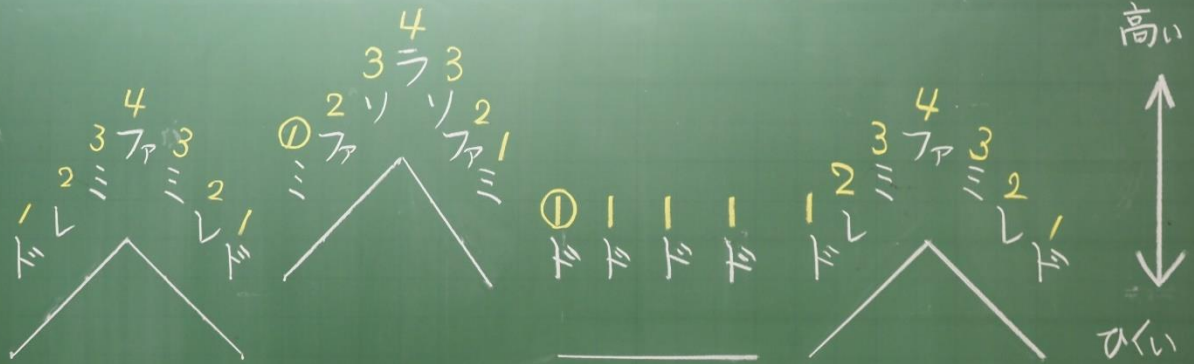
Cと判断されそうな
児童に対する支援例

- 本時の学習を振り返る。
- ・ワークシートを記入する。
- ・ワークシートを発表しあう。

- 演奏に入るタイミングが視覚的に分かりやすいように、板書で音楽の縦と横の構造を示し、音楽の流れにのって演奏させる。
- はじめは2組、次に3組と分かれて輪奏をし、音の重なり方の違いを感じ取らせる。
- 教師が開始位置を口頭で示したり、掲示物を用意したりする等して、まわりの音につられないように気を付けさせる。
- 机間指導や発表を聴取することで、個々の技能の定着を確認する。
- 粘り強く学習に取り組んでいたり、指の形や息の使い方（タンギング）などから得た知識を演奏に生かしたりするなどして、思いにあった表現をより追求する姿勢を見取り、知識・技能の評価と主体的に学習に取り組む態度の関連を図れるようにする。
- ☆②知技聴取・観察
- 伴奏の速さを調節する、何度も傾聴する、演奏できるようになった部分を称賛する等して、児童の技能や心情に寄り添えるようにする。
- ☆態②観察・聴取
- 本時の学習で何ができるようになったか、課題やうまくいかなかった理由は何か等を振り返らせるとともに、次時の学習の意欲をもたせる。

9 板書計画

めあて 音の高さやゆびづかいに気をつけてえんそうしよう。



つかう音

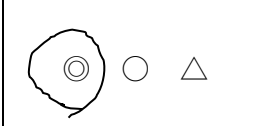
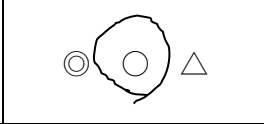
ゆびづかい

① おひっこしのゆび

10 ワークシート

主体的に学習に取り組む態度と知識・技能の観点の関連を図りながら、見取るためにワークシートを活用する。

【ワークシート例】

○月○日 ふりかえり	
なまえ	
(1) ◎、○、△、ひとつに○をつけましょう。	
ばんそうやまわりのおとにあわせて、えんそうできましたか？	
ゆびづかいやいきのつかいかたにきをつけて、えんそうできましたか？	
(2) ともだちに「かえるのがっしょう」のえんそうのコツをおしえらしたら、どんなことをおしえてあげられそうですか？	
(記入例)	
・音をなめらかにふくといいよ。	
・ともだちの音をよくきくと、おいかけっこにつられずにえんそうできるよ。	
・「トウ」といいながらふくといいよ。	
・音をなめらかにふくといいよ。	
・いきのつよさに気をつけてふくといい音がでるよ。	

児童の振り返りの記述と技能の定着の度合いの両側面から見取ることで、評価するようにする。

発達の段階を考慮して選択式と記述式の両方を用意する。記述式では、思いにあった表現にするために得た知識をどのように技能に生かしているか、思いを追求するために粘り強く活動に取り組んでいるかについて、見取るようにする。